令和５年度冬季歴史講座

2024.01.21

立部遺跡の火葬墓を読み解く～古代の火葬と氏族墓地～

奈良文化財研究所　小田裕樹

はじめに

・立部遺跡で見つかった古代火葬墓の位置づけについて。

・火葬墓：日本の古代（奈良・平安時代）を代表する墓制。

→仏教思想を背景とし、納棺→荼毘→拾骨→蔵骨（納骨）の一連の儀礼を経て造られた。

⇔縄文時代の火葬や古墳時代後期のカマド塚とは区別する。

１. 立部遺跡の古代火葬墓について

（１）立部遺跡の調査成果（図１～４）

・1990 年の発掘調査。松原市立大塚青少年運動広場の施設整備に伴う調査。

・古墳時代の方墳・円墳、古代の火葬墓・土坑墓・木棺墓を検出。

・古代火葬墓は ST2005、ST1004

→ST2005 は平安時代前期の火葬墓。

（２）立部遺跡の古代火葬墓

①火葬墓としての特徴

・・・蔵骨器が良好な状態で出土し、詳細な調査がおこなわれた。

②古墳時代から古代へ続く墓地に造られた。

２. 古代の火葬墓の特徴とは？

（１）文献資料にみる古代の火葬

・日本における火葬の始まりは文武４年（700）。

僧道昭の火葬「天下の火葬此より始まれり」（『続日本紀』）

その後、四代にわたって天皇が火葬された（持統・文武・元明・元正天皇）。

→火葬は「天皇喪葬を範として、貴族・官人層を中心に受け入れられた」（黒崎 1980）

奈良時代は火葬墓が顕著。平安時代に土葬墓・木棺墓が増加。

・「喪葬令」の規定・・・火葬に関わる直接の規定はない。

三位以上条：三位以上および「別祖氏宗」の「営墓」を認める。「若欲大蔵者聴」

・「軍防令」・「賦役令」の規定・・・遺体処理の一環としての火葬。「帰葬」の存在。

（２）古代火葬墓の考古学的特徴

・蔵骨器（骨蔵器）に火葬骨を納める。墓誌を納めることもある。

・多様な蔵骨器、納める施設も多様（図５・６）。

・代表的な事例（太安萬侶墓、威奈大村墓、柏原市雁多尾畑 49 支群１号火葬墓など）

（３）古代火葬墓の階層性

墓構造（蔵骨器と蔵骨器を納める施設の組み合わせ）に注目する。

→古代火葬墓を３つのタイプに分類（図７）。

Ⅰ型火葬墓：専用の蔵骨器を木槨・粘土槨・木炭槨・石櫃に納める。

Ⅱ型火葬墓：須恵器壺Ａ（短頸壺）を小石室や須恵器大甕（・素掘土坑）に納める。

Ⅲ型火葬墓：転用の蔵骨器（煮炊具・貯蔵具・食器）を土坑に納める。

・・・立部遺跡 ST2005 はⅡ型火葬墓、ST1004 はⅢ型火葬墓。

（４）古代火葬墓の造営背景

Ⅰ型とⅡ・Ⅲ型で構造・分布が大きく異なる。被葬者の階層・官位と相関する（表１）。

・Ⅰ型火葬墓は五位以上の官位と相関する。→「喪葬令」に則った墓か？

・Ⅱ・Ⅲ型は都城周辺の在地氏族墓地や地方で多く造営される。

① 下級官人・在地氏族層の墓

帯金具が出土する事例（三ツ塚古墳群）。

② 火葬の普及過程を示す

豊前国（福岡県東南部～大分県北部）における古代火葬墓が良好な事例（図８～10）。

→Ⅱ型火葬墓が火葬墓造営の端緒。背景に仏教思想・僧侶の存在が考えられる。

火葬を受容するか否かは在地の事情による。

３. 古代の氏族墓地の特徴とは？

（１）三ツ塚古墳群の概要（図 11・12）

・奈良県葛城市に所在する古墳群・古墓群。

・古墳時代後期から奈良・平安時代まで継続的な墓域の利用があった。

・東・中央・西の３つの支群それぞれで古墳・古代墳墓を造営する。

（２）三ツ塚古墳群の変遷とその特徴

・中央支群の形成過程

８号墳が端緒となる古墳。７号墳が墳丘をもつ古墳の最後。

７・８号墳の背後の斜面で古代の火葬墓・木棺墓が造営される。

→古代の火葬墓・木棺墓は祖先が葬られた８号墳・７号墳を意識しつつ造営された。

＝被葬者や所属する集団の結びつき・帰属意識（＝氏族紐帯）を再確認する場。

４. 立部遺跡の古代火葬墓の位置づけ

・古代の氏族墓地のあり方が分かる貴重な事例。

・発掘調査で構造が明らかになった火葬墓としても重要。

・地域に根差しつつ律令国家との関わりを有した在地氏族の墓が連綿と造られていた。

おわりに

文　献

小田裕樹 2008「奈良県葛城市三ツ塚古墳群・古墓群の形成過程」『九州と東アジアの考古学』
小田裕樹 2011「墓構造の比較からみた古代火葬墓の造営背景」『日本考古学』32
小田裕樹 2019「火葬墓造営の一考察」『論集　葬送・墓・石塔』狭川真一さん還暦記念会
黒崎　直 1980「近畿における８　・９世紀の墳墓」『研究論集』Ⅵ　奈良国立文化財研究所
小林義孝 1999「古代墳墓研究の分析視角」『古代文化』51-12
奈良県立橿原考古学研究所 2002『三ツ塚古墳群』
松原市教育委員会 2021『立部遺跡・立部古墳群跡』
村上久和 2021「豊前における古代火葬墓の動向」『古文化談叢』86
渡邊邦雄 2018『墓制にみる古代社会の変容』同成社

立部遺跡火葬墓 ST2005 から出土した蔵骨器・火葬骨・土器・焼土・炭

※立部遺跡から出土した蔵骨器ほか出土品は 1 月 20 日～２月 11 日まで平城宮いざない館「アフター発掘された日本列島 2023 展」で展示中です。

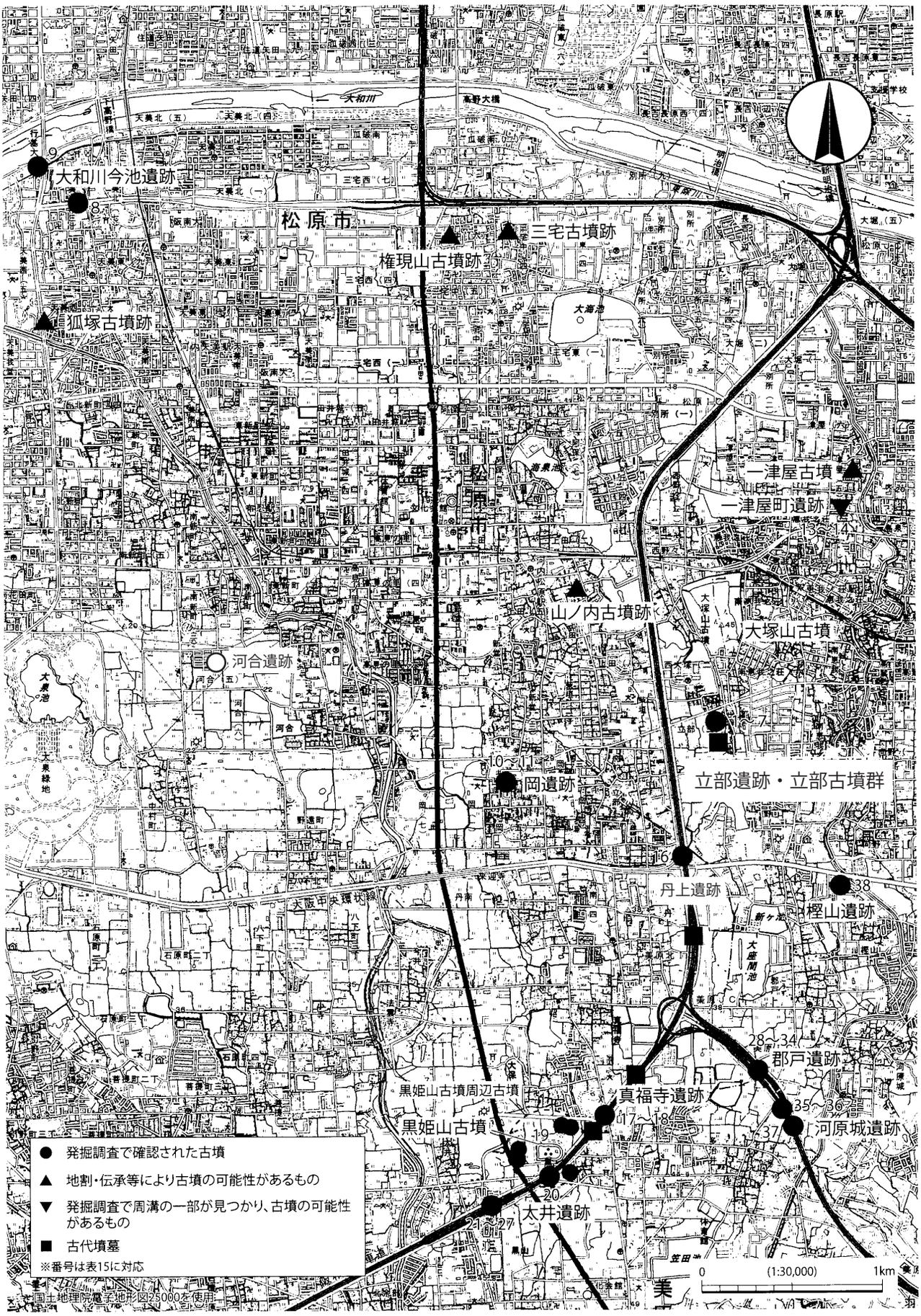


図1　立部遺跡と周辺の古墳・古代墳墓遺跡等の分布　1:30,000（松原市教委 2021 を一部改変）

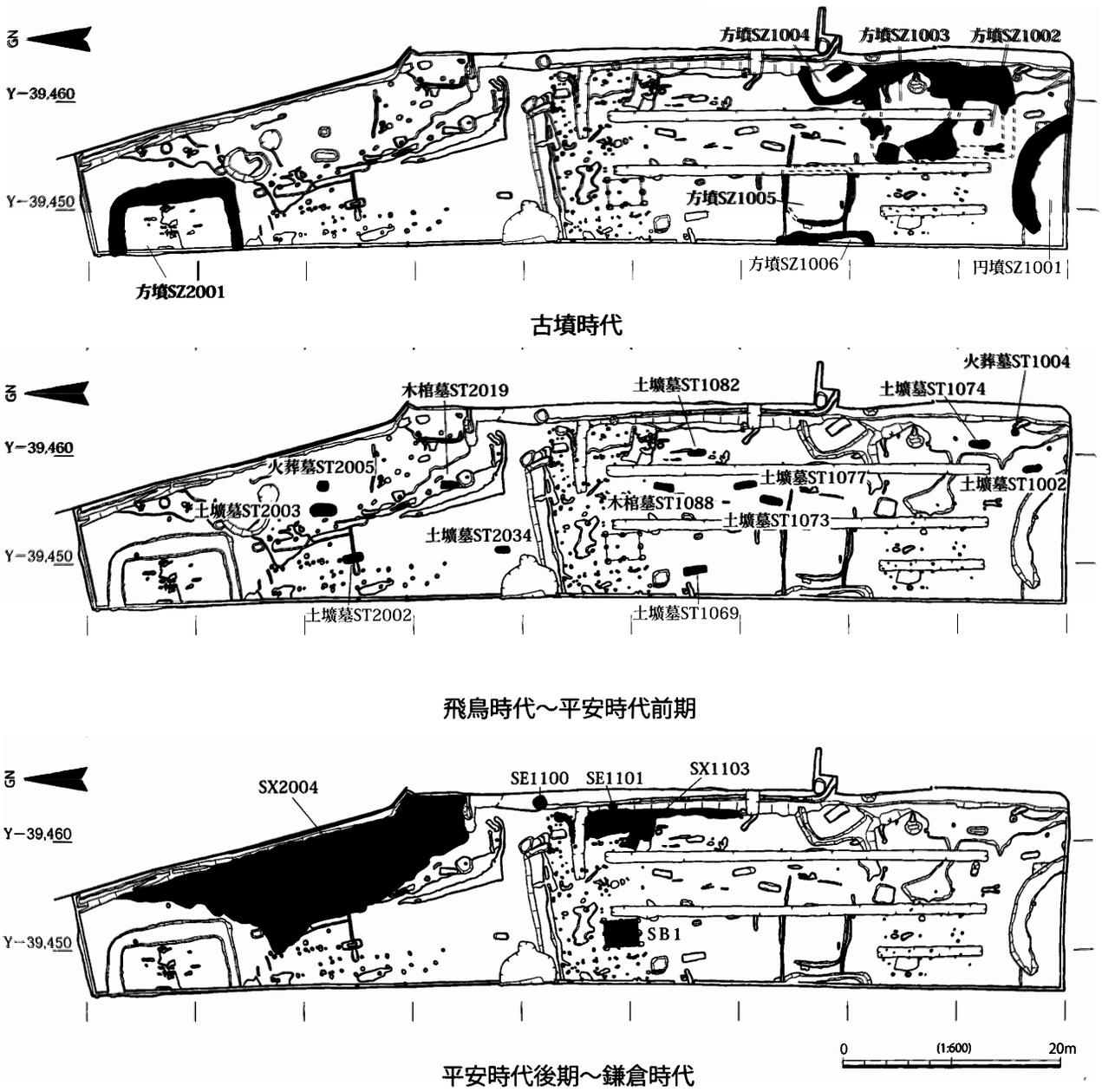


図2　立部遺跡・古墳群の遺構変遷図（松原市教委 2021） 1:600

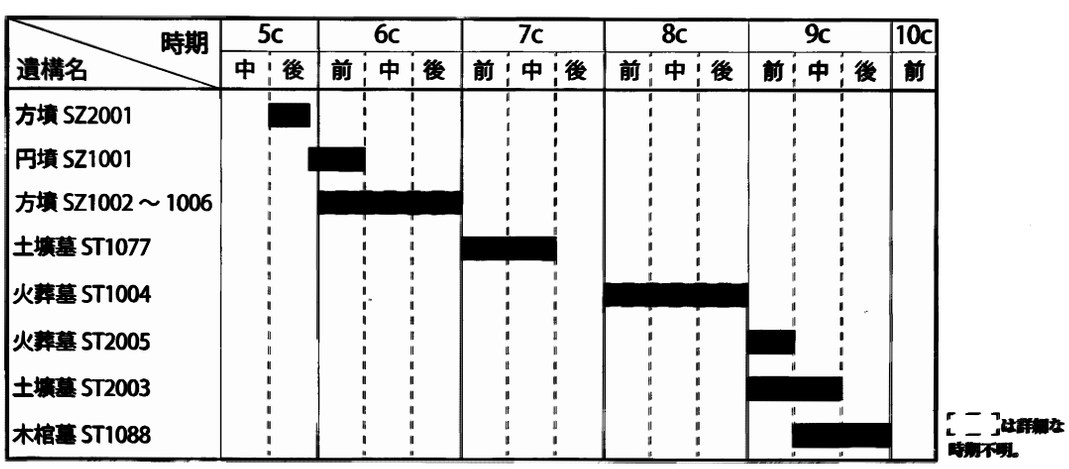
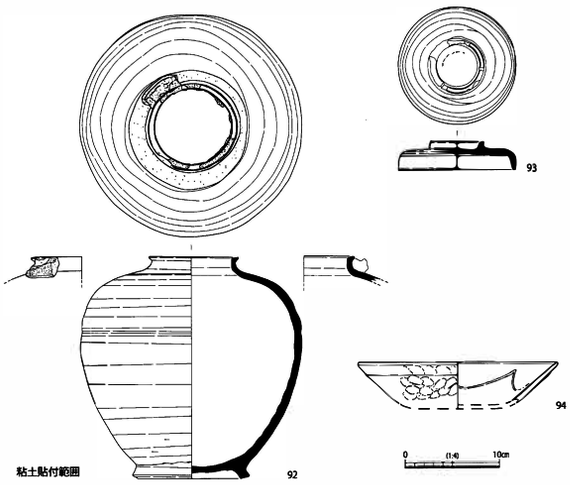
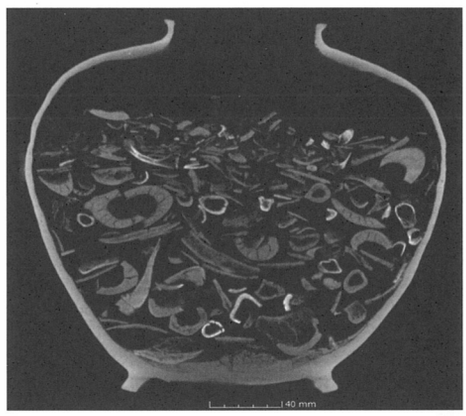


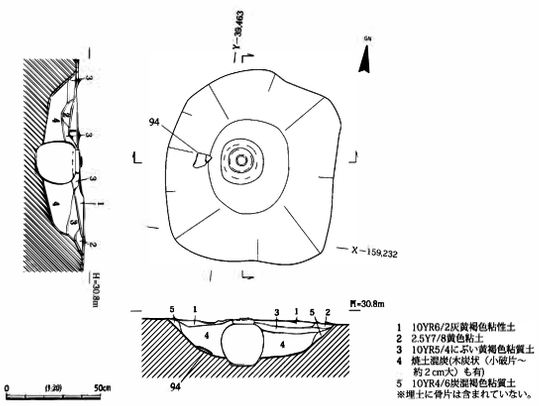
図3　立部遺跡・古墳群の主な古墳・古代墳墓の消長（松原市教委 2021）



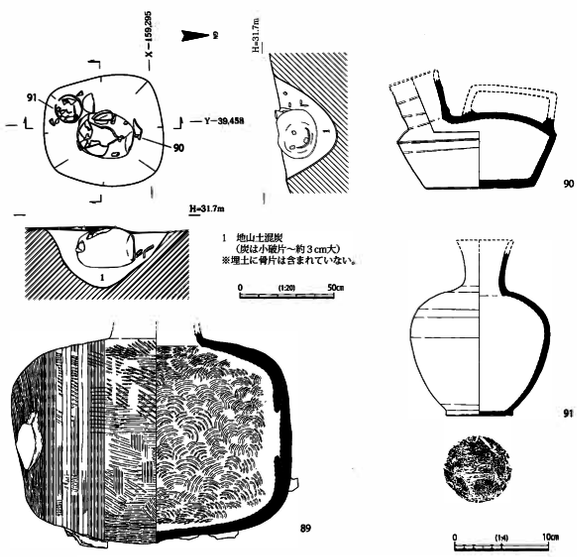
火葬墓 ST2005 蔵骨器



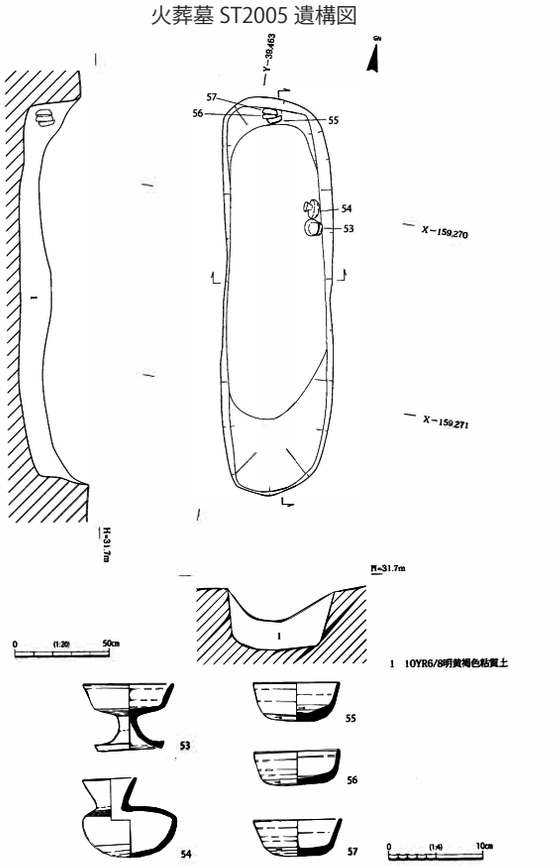
ST2005 蔵骨器内部の火葬骨（X 線 CT 画像）



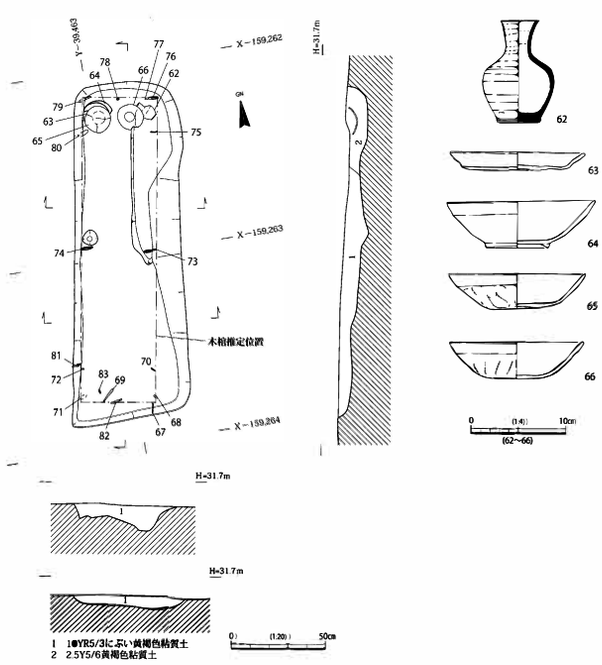
火葬墓 ST2005 遺構図



火葬墓 ST1004 遺構図・蔵骨器・出土土器

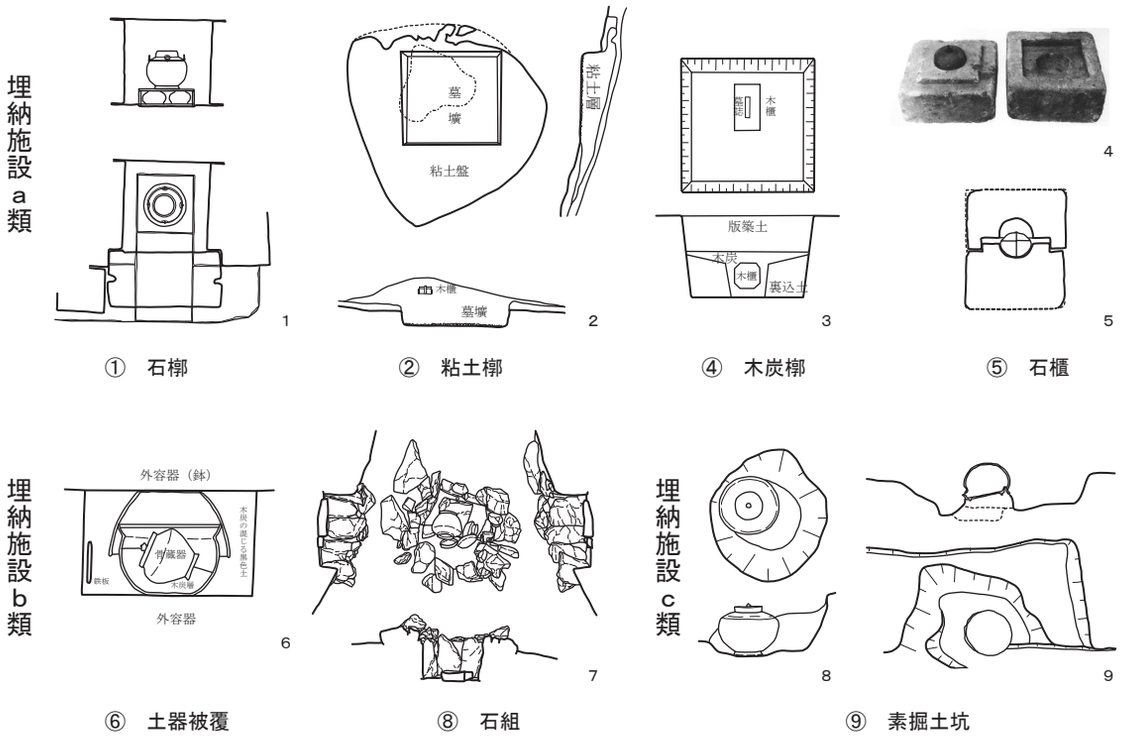


土坑墓 ST1077 遺構図・出土土器



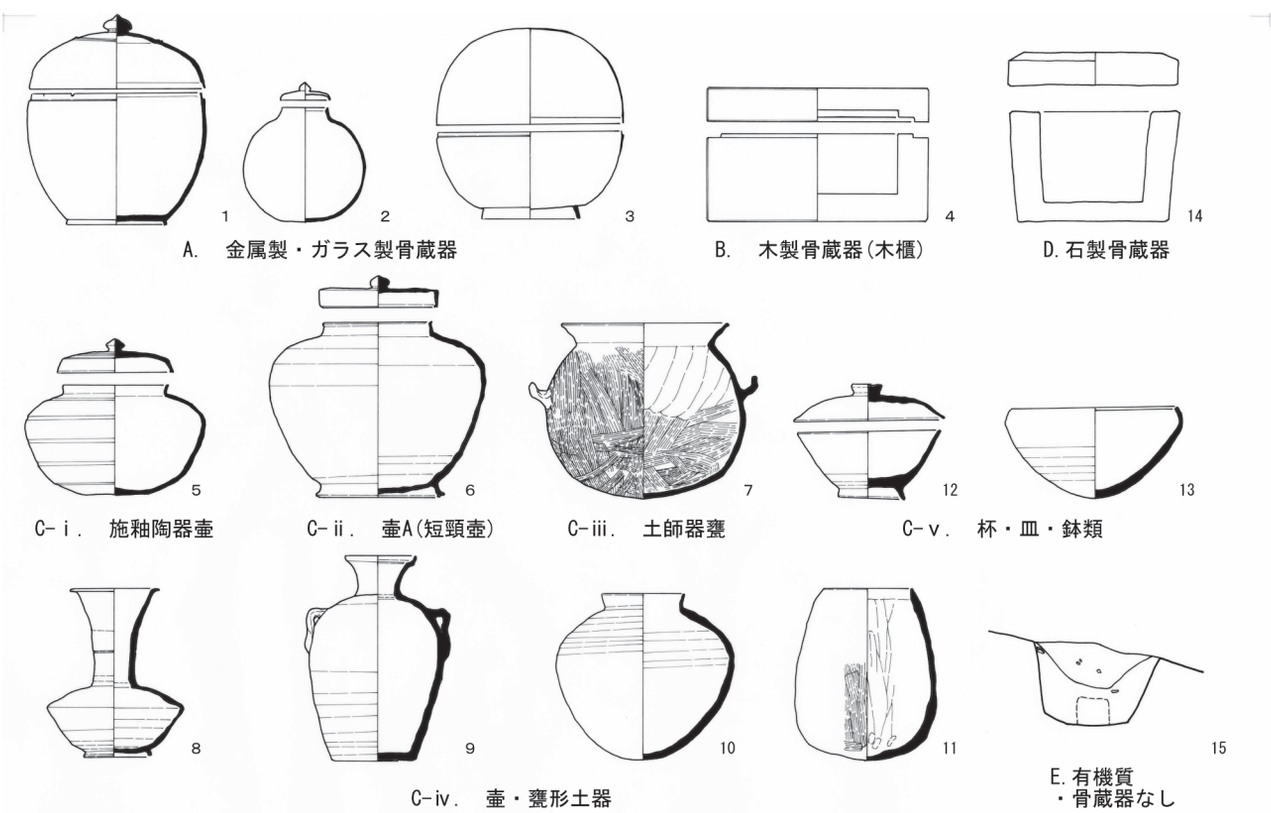
木棺墓 ST1008 遺構図・出土土器

図4　立部遺跡の火葬墓・土坑墓・木棺墓（松原市教委 2021）遺構図1：40　土器1：8



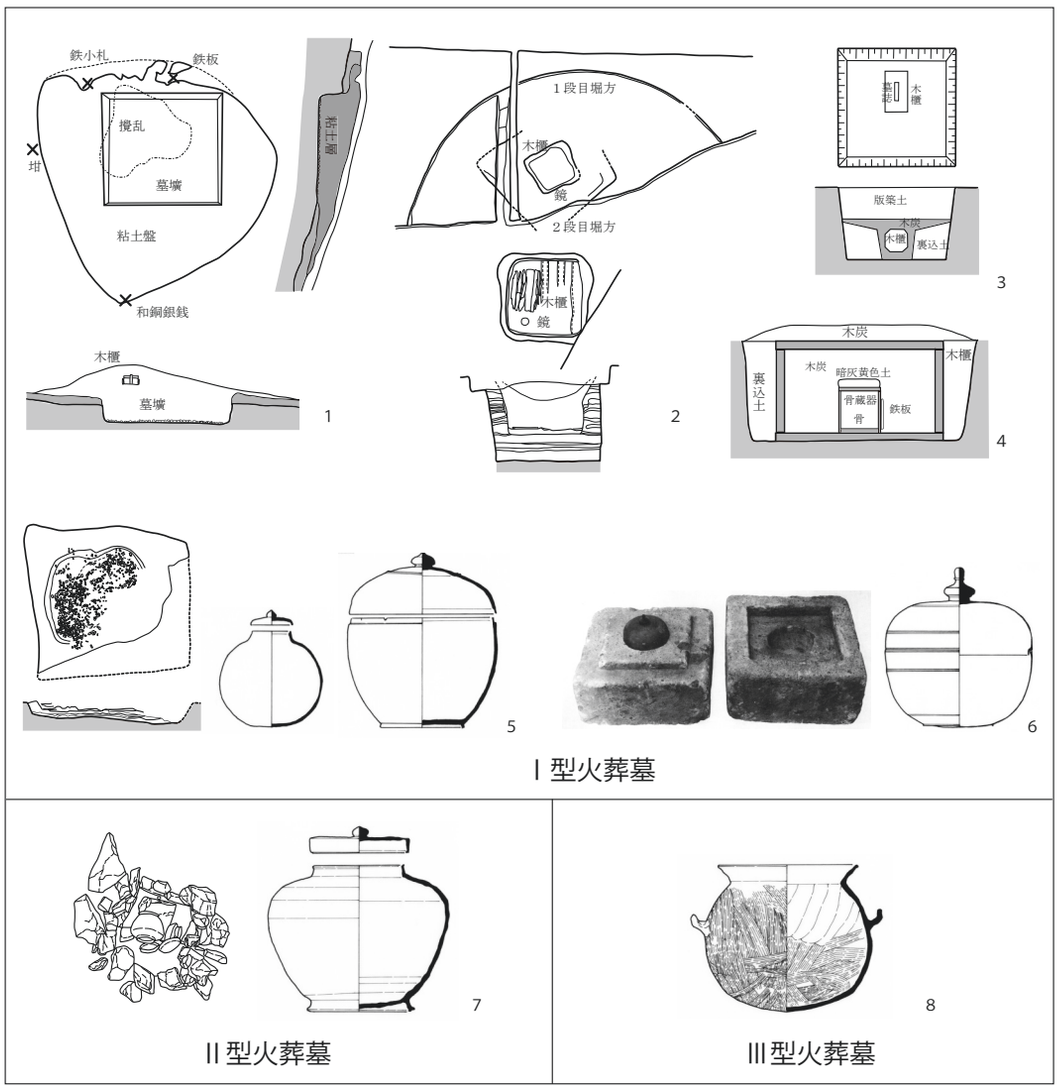
1．中尾山古墳 2．小治田安萬侶墓 3．太安萬侶墓 4．拾生古墓 5．北米谷古墓
6．出屋敷１号墓 7．雁多尾畑49支群１号墓 8．高井田古墓群20号墓 9．島ノ山火葬墓

図5 古代火葬墓の埋納施設の分類（小田 2011）



1・2．文祢麻呂墓 3．威奈大村墓 4．小治田安萬侶墓 5．大職冠山古墓 6．雁多尾畑49支群１号墓
7．雁多尾畑49支群２号墓 8．宮ノ本古墓群８号墓 9．池の上墳墓群14号墓 10．米嚙火葬墓 11．池の上墳墓群３号墓
12．池の上墳墓群17号墓 13．古寺墳墓群 14．御旅山古墓 15．大迫遺跡36号墓

図6 古代火葬墓の骨蔵器の分類（小田 2011）



1．小治田安萬侶墓　2．杣之内火葬墓　3．太安萬侶墓　4．出屋敷２号墓（模式図）　5．文祢麻呂墓
6．拾生古墓　7．雁多尾畑49支群１号墓　8．雁多尾畑49支群２号墓

図7　古代火葬墓の3類型（小田 2011）

表1　古代火葬墓の被葬者と墓構造からみた階層性（小田 2011）

被葬者・遺構名	官位					骨蔵器				埋納施設						立地		時期
	皇族	三位以上	五位以上	六位以下	在地氏族	僧侶	金銅製	木櫃	壺A	土師器	粘土槨・木槨	木炭槨	石櫃	土器被覆	石組	素掘土坑	単独	群集	
石川朝臣年足		●						●				●							天平宝字6(762)
文忌寸祢麻呂			●				●				●						●		慶雲4(707)
威名真人大村			●				●							●					慶雲4(707)
太朝臣安万侶			●					●				●					●		養老7(723)
小治田朝臣安麻呂			●					●			●								神亀6(729)
美努連岡萬			●									●					●		天平2(730)
紀吉継			●																延暦3(784)
宇治宿祢				○			?						●						慶雲2(705)
伊福吉部臣徳足比売				●			●						●					●	和銅3(710)
山代忌寸真作				●													●		戊辰(728)
高屋連枚人				●													●		宝亀7(776)
下道朝臣國勝國依母					●		●							●				●	和銅元(708)
僧道薬						●			●					●				●	和銅7(714)
僧行基						●	●						?				●		天平21(749)
雁多尾畑1号墓				○	○				●						●			●	平城Ⅱ
三ツ塚20号墓				○	○					●					●			●	平城Ⅲ・Ⅳ
三ツ塚22号墓				○	○					●					●			●	平城Ⅲ
三ツ塚15A号墓				○	○					●						●		●	平城Ⅲ・Ⅳ
三ツ塚34号墓				○	○					●						●		●	平城Ⅱ
雁多尾畑2号墓				○	○					●						●		●	平城Ⅱ
雁多尾畑3号墓				○	○					●						●		●	平城Ⅱ
雁多尾畑4号墓				○	○					●						●		●	平城Ⅱ

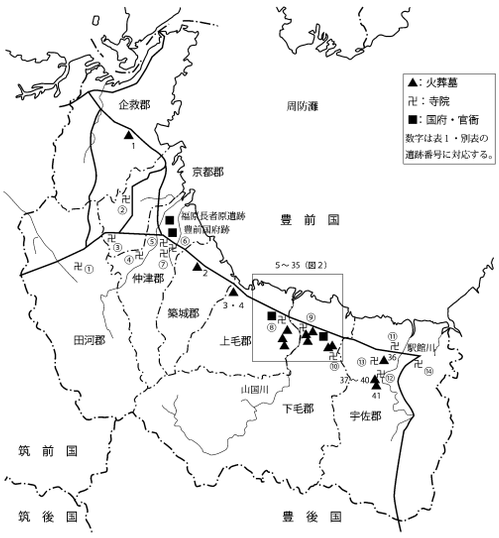


図8　豊前国の火葬墓分布図（小田 2019）

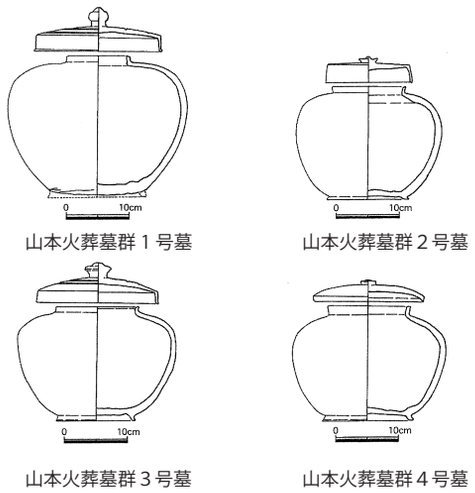


図9　大分県宇佐市山本火葬墓群（村上 2021）

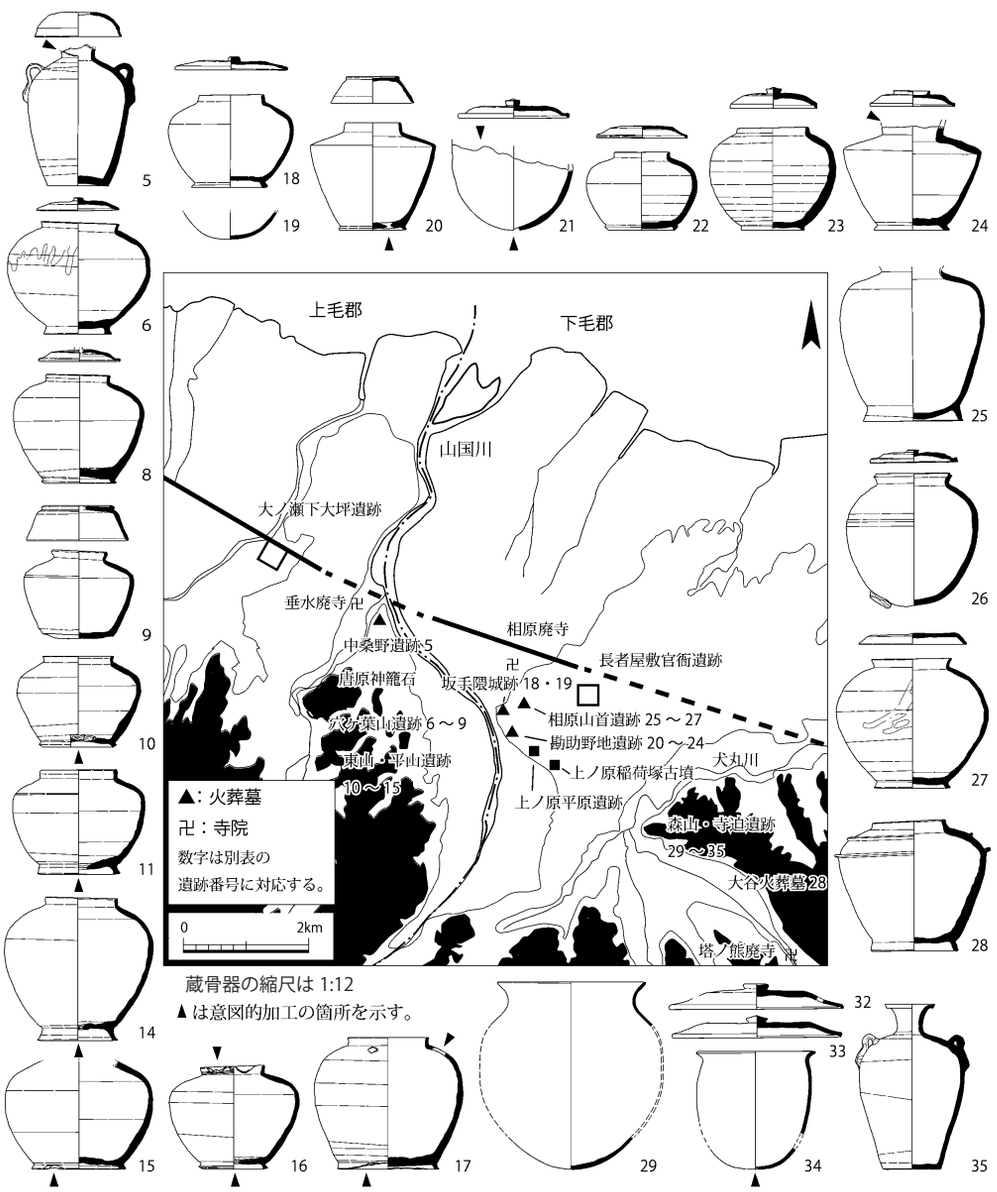


図 10　豊前国南部（福岡県上毛町～大分県中津市）の火葬墓分布（小田 2019）

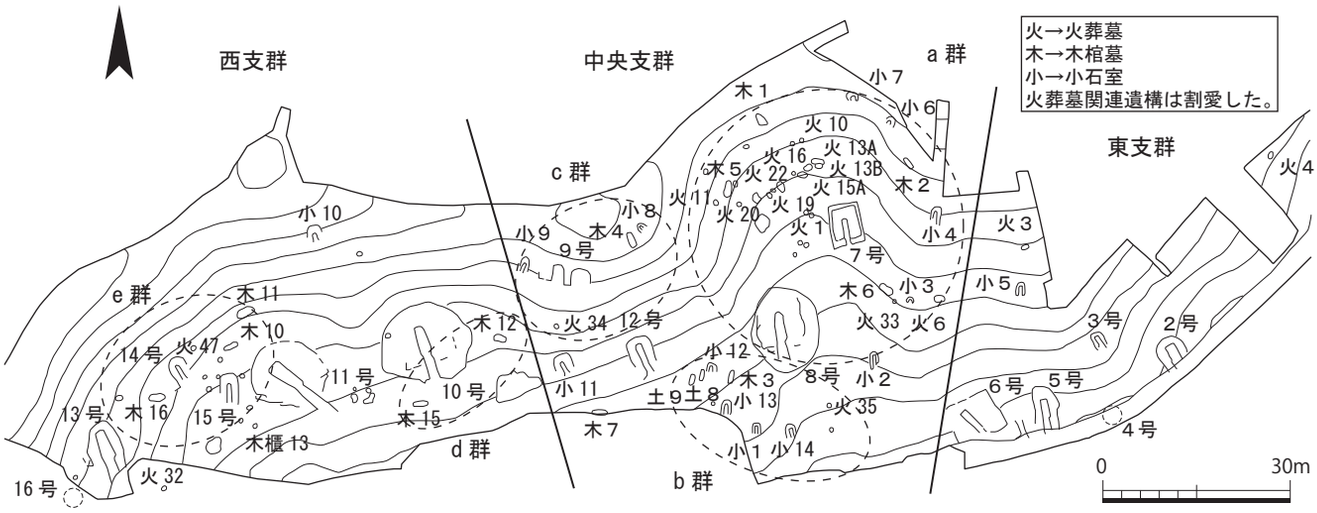


図 11　奈良県葛城市三ツ塚古墳群遺構配置図（小田 2008 より改変）1：1,200

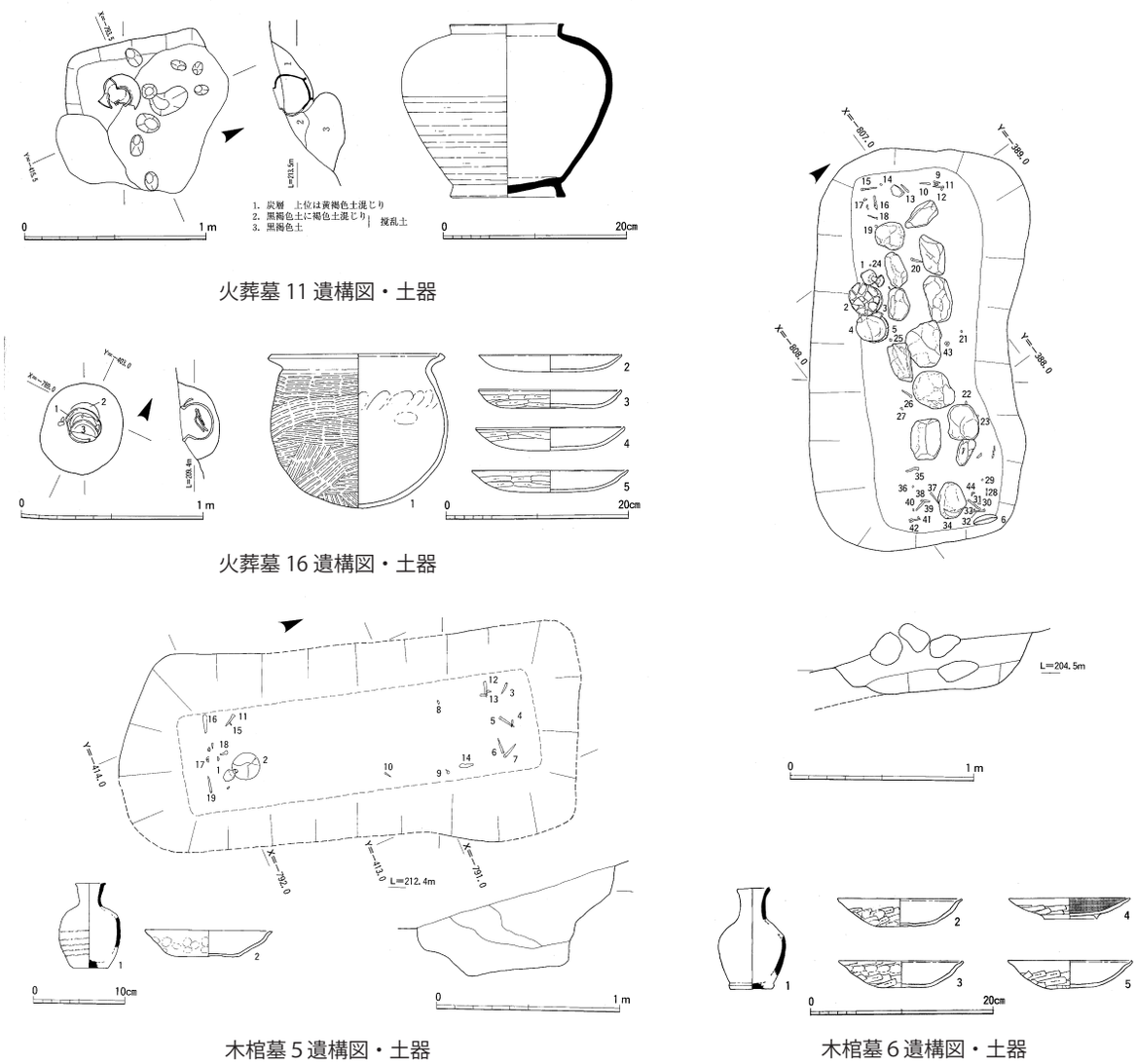


図 12　三ツ塚古墳群の火葬墓・木棺墓（奈良県立橿原考古学研究所 2002）